

事業報告

● 新役員体制

日頃より、トヨタ自動車(株)および関係先の皆様のご指導・ご支援を深く感謝致します。定時株主総会にて新役員体制が承認されました。

						
代表取締役社長 馬場 章友	常務取締役 間澤 宏	取締役 岡部 啓二郎	取締役 西舘 和雄(新任)	取締役 石田 明彦	取締役(非常勤) 江藤 信也	監査役(非常勤) 中村 好男
—	コーポレート本部	技術開発本部	デジタル エンジニアリング本部	エンジニアリング本部	トヨタ自動車九州(株) 技術本部副本部長	トヨタ自動車(株) 車両生技領域統括部長

※間瀬取締役は退任致しました

● 第29期(2019年4月～2020年3月) 事業報告

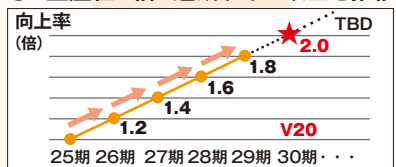
収益は28期同等に確保しつつ、効率化により人員を割合的に削減しながら社内開発投資を強化しました。活動トピックスとしては、T-PEQ's構想の加速に向けたシステム開発と体制づくりや、デジタルツイン実現に向けたIoTを活用した工場プラットフォーム化の推進・オリジナル技術開発への取り組みがあげられ、特に技術開発では、九州の大学や研究機関などと連携し、デジタルツインの要素の一つである“可視化”に特化した技術の確立に注力しました。さらに、新たな取り組みとして“自立化プロジェクト”を開始。拠点の役割明確化と特色強化を図っております。加えて、この6月に総務省の自営等BWA(Broadband Wireless Access)免許交付により認定されたローカル5Gを活用し、製造現場での無線技術活用の検証を進めており、様々な活動を通じて、TPECの競争力強化を目指します。今後もAfterコロナ・Withコロナの新しい働き方への取り組みと合わせて、戦略的且つフレキシブルな会社体制構築を段階的に実施してまいります。

VISION 2020を達成し、“みんなの笑顔”を実現

VISION2020 最終年度

これまでの取り組みを“定着”させ、次期VISIONへの“拡大”に向けたスタートアップの年
『熱い想いで未来へチャレンジ!』の会社スローガンのもと、PDCAを回しながら達成プロセスを着実に実行

● “生産性2倍” 達成ライン以上を推移



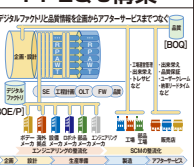
- 生産性は目標の+17.1%を達成、前期に引き続き向上を継続
- 社内に加えお客様先での効率化へも貢献
- 向上分は開発や人材育成へ還元

可視化技術の確立



- シミュレーションの高度化×効率化に向けたエンジニアリングプロセス改革やデジタルプラットフォームの構築、IoTの活用拡大に向けた体制づくりと技術開発

T-PEQ's構築



- 競争力強化に向けた取組みの一環として“ロケーションフリー”且つ“ダイバーシティ対応”な働き方に向けた諸施策を実施



- 競争力強化に向けた取組みの一環として“ロケーションフリー”且つ“ダイバーシティ対応”な働き方に向けた諸施策を実施

一人ひとりの個性を尊重 自主・自律の風土

- 未来のクルマづくりPJTでは“モビリティの将来とそこに関わるTPECの将来”像をイメージ



- TPECが取組むべき技術・領域、組織や働き方など多方面から検討、次期VISIONのベースづくり

収益・生産性

技術開発・次世代領域

働き方改革

意識・風土

退任・新任役員挨拶

退任



間瀬 晃さん
(まぜ あきら)

メッセージ 8年半大変お世話になり、ありがとうございました。この間、会社と皆様の著しい成長と一緒に体験し、特に開発や要素技術の進化に関わることが出来、私にとっても大変貴重な時間でした。

「担う会社」が「提案する会社」に成長できたのは歴代社長のご指導もありますが、社員一人ひとりが「変えよう!」とした努力や熱量の結果です。自信を持ち、益々変化していく自動車産業をリードするためにも、さらにデジタル技術で一步二歩先を走り続けて下さい。皆様なら必ずできると確信しています!

新任



取締役
西舘 和雄さん
(にしだて かずお)

メッセージ この度、デジタルエンジニアリング本部担当として取締役就任する事になりました西舘です。年初に顧問として出向以来、馬場社長並びに各役員のご指導のもと、パワトレ系のお客様を中心に弊社への期待値や現業務の把握にも努めてきました。新型コロナの影響で社内の皆さんの頑張りが目に見えなかったことは残念ですが、宣言解除を受けて心機一転、重苦しい雰囲気は跳ね返し、未来に向けた働き方改革・デジタル業務改革を推進してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

パートナー会社総会

●初のフルライブストリーミングによる開催<7月7日(火)>

パートナー会社42社様にご参加頂き、本年度の総会を開催致しました。当日は、当社の方向性・重点取組事項へのご理解を深めていただく機会とし、今年度方針における重点テーマに関し、各領域の本部長より、大変革の時代を生き残るためのシステム開発、競争力向上・自立化等についてご説明致しました。質疑応答では、Withコロナ時代のニューノーマルについて、TPEC・パートナー会社様双方がどの様に捉え、考えていくか、活発な意見交換ができました。昨今の新型コロナウイルスの影響下での開催とはなりましたが、従来の集合型開催時と遜色のない“双方向のコミュニケーション実現”を目指し、初のオンライン開催に挑戦し、無事実現することができました。当総会において、相互に確認し得た将来への方向性を踏まえ、パートナー会社様との持続的連携強化に向けて取組んで参ります。



▲元町拠点より、LIVE配信の様子

環境への取組み

●環境委員会が発足されました

本年度より、会社方針に「環境」が取り上げられ、全社的に推進するべく、環境委員会が発足されました。

間澤常務取締役をトップに、各本部から環境大臣（推進リーダー）を選任し、「トヨタ環境チャレンジ2050」のマイルストーンとなる2030年までの目標を掲げ、その達成に向けて、長期・継続的な活動を実施して参ります。本年度は、CO₂削減（2015年度比▲6%）ペーパーレス（昨年度比70%）を重点テーマとして全社一丸となって取組みます。

組織図



▲ 本社に設置されたEVスタンド

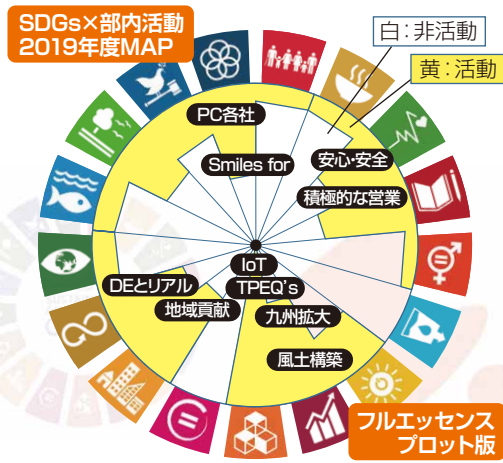
●SDGsと自部署活動とを繋ぐ（プレス内外装ENG部 鈴木GM）

アクションへとつなげるには、一人ひとりが『自分事として捉えることがマストである』と考え、まずは自分たちの活動や業務がSDGsの17目標とどう関連するのかをメンバーと話し合いながら、MAPを作成しました。

後日、メンバーから、豊田市広報に掲載されていた、SDGs活動に関する記事を紹介された時は、大変うれしく、心強く感じました。



▲ SDGsに興味を持ってくれるメンバーが増えてきました！



連載コンプライアンスの徹底に向けて

監査室・ITマネジメントG

●テレワーク時の機密管理もしっかりと！

当社では、“TPECらしい働き方改革”を推進する為、テレワークの対象者や対象業務を拡充してきました。現在は、新型コロナウイルスへの対策としても、多くの従業員がテレワークを実施しています。

テレワークでは“場所に縛られない働き方”により、通勤時間や出張移動時間を有効に活用できるメリットがある反面、自宅や出張先等、従来のオフィス以外で業務を行うことにより、機密漏えいリスクが高くなるという点を再度認識する必要があります。

情報セキュリティ教育の中でも、オフィス内で業務中に席を外す場合は必ずパソコンの画面をロックする（ノートパソコンであれば画面を閉じる）ようお願いしています。

これはパソコンの画面に表示された情報が、本来その情報を知り得ない別の社員が知ってしまうリスクがあるからです。

テレワーク時も自宅には家族や訪問者が出入りする機会があり、パソコン画面に機密情報が表示

されたままだと、家族や訪問者が無意識に機密情報を知り得るリスクがあります。

私たちが業務で扱っている情報は、お客様からお預かりしている大切な情報や社内の機密が含まれており、ちょっとした油断が取り返しのつかない事態に発展しかねません。

テレワークを行う場合はオフィス同様に、機密管理に十分注意してください。

■テレワーク機密管理チェックリスト！（チェックしてみましょう！）

内 容	セルフチェック
できるだけ家族と同室での業務遂行を避け、他の人が業務用パソコンを閲覧しにくい環境下での業務遂行を心掛けている	
席を外す場合、必ずパソコンの画面をロックしている（ノートパソコンであれば画面を閉じている）	
貸与されているテレワーク機器について、盗難や紛失には十分注意して管理している	

TPEC君が行く!! 第9回 『テレワーク中も同様の機密管理を!』



商品紹介

●協働ロボット制御ソフト「T-ROCO」

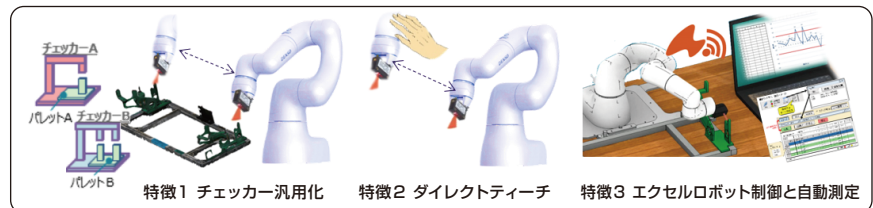
エクセルで制御が可能な、協働ロボット制御ソフト「T-ROCO（ティーロコ）」を2020年4月より発売を開始しました。

2018年のビジネスアイデアコンテストがきっかけのアイデアで、これまでの開発アイテムを融合させ、ロボット先端にだんち君とBLE[※]を実装。Connec-Toolに協働ロボット制御機能を実装（T-ROCO）する事で、測定の自動入力を兼ね備えた商品になっています。

測定器とセットにした協働ロボット自動測定システム全体を「姿見くん」として、プロジェクトでの活用、営業に今後力を入れていきます。

【特徴】

※BLE…Bluetooth Low Energy（省電力無線通信）



特徴1：ロボットプログラムによるチェッカーの汎用化

特徴2：ダイレクトティーチ機能で現場で簡単ティーチング

特徴3：エクセルロボット制御機能と自動測定機能

【導入メリット】

- ①チェッカー投資削減
- ②測定工数&休日工事削減
- ③省スペース化

【今後の開発計画】

他機種の協働ロボット（URとHC-10）をT-ROCOに取込むことで、ソフトの汎用化開発を実施します。

【最後に】

今回、要素（計測&ロボット）、技開（通信、BLE）、生準（実務活用）、サンビット様（ソフトウェア開発）でチームを設立して、連携して開発する事ができました。

相乗効果もあり、皆が楽しく開発できたのが何よりもよかったと感じます。完成したときの達成感はまるでPJTをやり遂げた時のようでした。

COBOTTA	URシリーズ	HC-10
デンソー	Universal Robot	安川電機
済	2020予定	2020予定

▲ 今後のT-ROCO拡張計画



▲ チーム T-ROCO

お問い合わせ先
営業G （0565-75-7564）